

【研究科全体】 教育研究上の目的、教育目標、3方針

人材養成、その他教育研究上の目的

農学研究科（前期・後期各課程包含）【学則に掲載済みの内容】	(100文字程度)
本大学院農学研究科は、国内外の農学諸分野におけるフロンティアとして、見識と実力、さらに健全で調和のとれた人間性を有する研究者及び高度専門技術者の人材養成を目指し、実学主義教育のもと論理的思考力と問題解決能力の獲得及び向上を図り、生物資源、生命科学、環境科学、健康科学並びに経営・経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。	
生物産業学研究科（前期・後期各課程包含）【学則に掲載済みの内】	(100文字程度)
本大学院生物産業学研究科は、幅広い学問領域の知識を備え、高度な専門知識と能力及び創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ人材の育成を目指し、生物産業学に関する実学の精神と文理融合の教育体系に基づき、北方圏の地域性を活用した農林水産に関わる生物資源、バイオテクノロジー、経営経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。	

【博士前期課程】

教育目標

農学研究科	168文字	(200～300文字程度)
農学研究科博士前期課程は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。①農学を基盤とし、それぞれの専攻分野における確かな知識と技術を有する者、②研究者・専門家としての責任を自覚し、実学主義のもと問題解決に取り組む能力と意欲を有する者、③適切なコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力により社会への発信力を有する者。		
生物産業学研究科	174文字	(200～300文字程度)
生物産業学研究科博士前期課程は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。①生物産業学を基盤とし、それぞれの専攻分野における確かな知識と技術を有する者、②研究者・専門家としての責任を自覚し、実学主義のもと問題解決に取り組む能力と意欲を有する者、③適切なコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力により社会への発信力を有する者。		

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

農学研究科	244文字	(200～300文字程度)
農学研究科博士前期課程は、その教育目標を踏まえ、次のような者に修士の学位を授与する。すなわち、農学を基盤としそれぞれの専攻分野における①確かな知識と技術を有する者、②研究者、教育者あるいは専門家としての能力を有する者、③論文の執筆や口頭発表を行う能力、さらに多様な発信力を有する者、③科学者としての倫理を理解し、社会の問題に目を向け、問題解決に取り組む意欲と能力と意欲を有する者。なお、研究科が定める所定単位の修得と博士前期課程における学位論文評価基準に基づく審査に合格しなければならない。		
生物産業学研究科	250文字	(200～300文字程度)
生物産業学研究科博士前期課程は、その教育目標を踏まえ、次のような者に修士の学位を授与する。すなわち、生物産業学を基盤としそれぞれの専攻分野における①確かな知識と技術を有する者、②研究者、教育者あるいは専門家としての能力を有する者、③論文の執筆や口頭発表を行う能力、さらに多様な発信力を有する者、③科学者としての倫理を理解し、社会の問題に目を向け、問題解決に取り組む意欲と能力と意欲を有する者。なお、研究科が定める所定単位の修得と博士前期課程における学位論文評価基準に基づく審査に合格しなければならない。		

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

農学研究科	341文字	(250～350文字程度)
農学研究科博士前期課程は、研究科各専攻の教育目標を踏まえ、各専攻において共通して理解すべき学識を得るための特論科目により基盤を築き、選択科目により専門内容をさらに深化させ、あるいは、研究者、教育者あるいは技術者として必要なプレゼンテーションあるいはコミュニケーション能力を向上させ、実験科目により実験技術を修得し、演習科目により知識を深めるとともに発表能力や問題解決能力を増強する。さらに、修士論文の執筆によって、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して専門性を高め、論文の執筆、発表等を体得することにより、農学にかかわる高度な研究者・専門家としての総合力を確立するためのカリキュラムを配置する。		
生物産業学研究科	347文字	(250～350文字程度)
生物産業学研究科博士前期課程は、研究科各専攻の教育目標を踏まえ、各専攻において共通して理解すべき学識を得るための特論科目により基盤を築き、選択科目により専門内容をさらに深化させ、あるいは、研究者、教育者あるいは技術者として必要なプレゼンテーションあるいはコミュニケーション能力を向上させ、実験科目により実験技術を修得し、演習科目により知識を深めるとともに発表能力や問題解決能力を増強する。さらに、修士論文の執筆によって、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して専門性を高め、論文の執筆、発表等を体得することにより、生物産業学にかかわる高度な研究者・専門家としての総合力を確立するためのカリキュラムを配置する。		

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

農学研究科	200文字	(200～300文字程度)
農学研究科博士前期課程は、教育目標を踏まえ、次のような者の受け入れを行う。①農学の当該専攻分野における四年制大学修了程度の学力を有する者。②国内外における科学・技術を理解するための語学力を有する者。③豊かな学びと人間関係の構築を可能にするコミュニケーション能力を有する者。④当該専攻分野に対する強い関心、研究者あるいは専門家として社会に貢献しようとする明確な問題意識、学修に対する強い意欲を有する者。		
生物産業学研究科	206文字	(200～300文字程度)
生物産業学研究科博士前期課程は、教育目標を踏まえ、次のような者の受け入れを行う。①生物産業学の当該専攻分野における四年制大学修了程度の学力を有する者。②国内外における科学・技術を理解するための語学力を有する者。③豊かな学びと人間関係の構築を可能にするコミュニケーション能力を有する者。④当該専攻分野に対する強い関心、研究者あるいは専門家として社会に貢献しようとする明確な問題意識、学修に対する強い意欲を有する者。		

【博士後期課程】

教育目標

農学研究科	154文字	(200～300文字程度)
農学研究科博士後期課程は、人材養成目的を踏まえ、次のような者の育成を教育目標とする。①農学への深い理解に基づき、それぞれの専攻分野における高度な知識と技術を有する者、②研究者・教育者あるいは専門家として独立して活躍しうる能力を有する者、③豊かな見識と学識により国際的にリーダーとして活躍しうる能力を有する者。		
生物産業学研究科	160文字	(200～300文字程度)
生物産業学研究科博士後期課程は、人材養成目的を踏まえ、次のような者の育成を教育目標とする。①生物産業学への深い理解に基づき、それぞれの専攻分野における高度な知識と技術を有する者、②研究者・教育者あるいは専門家として独立して活躍しうる能力を有する者、③豊かな見識と学識により国際的にリーダーとして活躍しうる能力を有する者。		

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

農学研究科	282文字	(200～300文字程度)
農学研究科博士後期課程は、教育目標を踏まえ、次のような者に博士の学位授与を行う。農学に対する深い理解の上に、①それぞれの専攻分野における高い専門性を保証する国際的なレベルでの高度な知識と技術を有する者、②協調性を持ちながらも独立して、研究・教育あるいは専門家としての業務を遂行する能力を有する者、③多様なコミュニケーション能力を有し、国際的に活躍する能力を有する者、④科学者としての倫理を理解し、その専門性に基いて社会への責任を果たそうとする者。なお、農学研究科が定める所定単位の修得と博士後期課程における学位論文評価基準に基づく審査に合格しなければならない。		
生物産業学研究科	291文字	(200～300文字程度)
生物産業学研究科博士後期課程は、教育目標を踏まえ、次のような者に博士の学位授与を行う。生物産業学に対する深い理解の上に、①それぞれの専攻分野における高い専門性を保証する国際的なレベルでの高度な知識と技術を有する者、②協調性を持ちながらも独立して、研究・教育あるいは専門家としての業務を遂行する能力を有する者、③多様なコミュニケーション能力を有し、国際的に活躍する能力を有する者、④科学者としての倫理を理解し、その専門性に基いて社会への責任を果たそうとする者。なお、生物産業学研究科が定める所定単位の修得と博士後期課程における学位論文評価基準に基づく審査に合格しなければならない。		

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

農学研究科	212文字	(250～350文字程度)
研究を通しての教育を重視し、研究の全行程を通して専門分野への学識を深め、コミュニケーション能力を増強し、博士論文の執筆においては、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して各自の専門性を確立し、論文の執筆、発表等を体得することにより、農学にかかわる高度な研究者・専門家としての総合力を確立するカリキュラムを編成し、あるいは、教育を実施する。		
生物産業学研究科	215文字	(250～350文字程度)
研究を通しての教育を重視し、研究の全行程を通して専門分野への学識を深め、コミュニケーション能力を増強し、博士論文の執筆においては、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して各自の専門性を確立し、論文の執筆、発表等を体得することにより、生物産業学にかかわる高度な研究者・専門家としての総合力を確立するカリキュラムを編成し、あるいは、教育を実施する。		

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

農学研究科	222文字	(200～300文字程度)
農学研究科博士後期課程は、教育目標を踏まえ、次のような者の受け入れを行う。①農学の当該専攻における大学院博士前期課程修了程度の学力を有する者。②国内外における科学・技術を理解し、成果を発信する複数言語の語学力を有する者。③研究者あるいは高度な専門家として活躍する人間関係の構築を可能にするコミュニケーション能力を有する者。④研究者・教育者あるいは高度な専門家として国際的に社会に貢献しようとする広い視野、明確な問題意識、強い意欲を有する者。		
生物産業学研究科	228文字	(200～300文字程度)
生物産業学研究科博士後期課程は、教育目標を踏まえ、次のような者の受け入れを行う。①生物産業学の当該専攻における大学院博士前期課程修了程度の学力を有する者。②国内外における科学・技術を理解し、成果を発信する複数言語の語学力を有する者。③研究者あるいは高度な専門家として活躍する人間関係の構築を可能にするコミュニケーション能力を有する者。④研究者・教育者あるいは高度な専門家として国際的に社会に貢献しようとする広い視野、明確な問題意識、強い意欲を有する者。		

[専攻単位] 教育目標

教育目標	
【博士前期課程】	
農学	農学専攻では、作物または園芸作物の生産、育種、バイオテクノロジー、ポストハーベストおよび農作物に関わる微生物や昆虫類に関する専門的な学識と研究能力を修得し、発想・問題解決能力を備えた人材の育成を教育目標とする。
畜産	畜産学専攻では、動物生命科学、動物生産科学を基礎とした畜産における諸問題の解決手法ならびに畜産物を利用した食品加工技術を修得するとともに、修得した知識や技術を活用しうる人材の育成を教育目標とする。
セラピー	バイオセラピー学専攻では、人と生き物が健全に共生できる環境と生き物を活用した人間生活の質の向上を実現するための確かな専門的知識と研究能力を修得し、広く社会で希求される人材の育成を教育目標とする。
バイオ	バイオサイエンス専攻では、最先端知識、技術を活用して、創造的、独創的な研究を邁進し、研究内容を自在に発信・討論できるとともに、産業・教育の発展に広く寄与する人材の育成を教育目標とする。
農化	農芸化学専攻では、生産環境化学、植物生産化学、微生物学、食料資源理化学、生物制御化学、栄養生化学の各専門領域における確かな知識と技術を修得し、研究課題を論理的に解決できる人材の育成を教育目標とする。
醸造	醸造学専攻では、醸造業をはじめとする微生物産業に関わる基礎的な知識及び微生物学、化学または生物工学を基盤とした研究能力を有する人材の育成を教育目標とする。
食栄	食品栄養学専攻では、食品学や栄養学などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた人材の育成を教育目標とする。
林学	林学専攻では、森林・林業・林産業・農山村に関する専門領域における高度な知識と研究能力、管理能力を修得し、森林の保全とその多面的機能の高度利用を目指し、生物多様性の保全や循環型社会の形成に関する問題設定・解決能力を備えた人材の育成を教育目標とする。
農工	農業工学専攻では、水、土地および食料資源の有効利用技術の開発や、環境の創造・保全を考慮した工学的生物生産技術に関わる能力を持ち、優れた問題解決力を持った実践的技術者の育成を教育目標とする。
造園	造園学専攻は、本学が目指す実学主義、実学教育のもとに、造園学の視点から、「人間と自然との共存」を基本とした合理的で快適な土地空間を創造あるいは保全し、秩序づけることのできる人材の育成を教育目標とする。
開発	国際農業開発学専攻では、自然科学および社会科学にわたる広範な学問領域を統合する総合的アプローチにより、農業開発や国際協力にかかわる問題の解決を図るための論理的思考力と実践力、さらには、異なる文化や習慣を尊重した活動を展開できる人材の育成を教育目標とする。
農経	農業経済学専攻では、社会科学の専門領域における知識と研究能力を修得し、食料問題・農業問題・環境問題等、変化する社会・経済情勢に的確に対応できる人材の育成を教育目標とする。
ビジネス	国際バイオビジネス学専攻では、食・農・環境ビジネスに関する専門知識と、倫理、言語能力、国際教養を身につけたジュニア専門家の養成を目指し、研究能力、発表能力および人間力などの実践的で総合的な能力を有する人材の育成を教育目標とする。
生物生産	生物生産学専攻では、植物資源生産学、動物資源生産学の専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、さらにそれをもって植物、動物を合わせた総合的な生物生産に係る課題を高次の観点から考察、探究できる能力を備えた人材の育成を教育目標とする。
アクアバイオ	アクアバイオ学専攻では、オホーツク海域の水産資源を持続的に利用するための水産生物学や水圏環境学に関する高度な学識と研究手法を修得し、問題設定、解決能力を備えた者の育成を教育目標とする。
食品香粧	食品香粧学専攻では、食品や香粧品の製造・機能性・安全性など食と健康に関わる学問領域における確かな知識と研究能力を修得させ、これらの分野における問題設定と問題解決の能力を備えた者の育成を教育目標とする。
産業経営	産業経営学専攻では、地域の生物産業や企業の持続的発展を支える問題解決型の経営学・経済学に精通した、地域にこだわりグローバルに活躍できる専門職業人、コンサルタントや研究者の育成を教育目標とする。

【博士後期課程】

農学	農学専攻では、作物または園芸作物の生産、育種、バイオテクノロジー、ポストハーベストおよび農作物に関わる微生物や昆虫類に関する専門的な学識を身につけた専門分野の有能な研究者や高度な専門技術者の育成を教育目標とする。
畜産	畜産学専攻では、動物生命科学、動物生産科学を基礎とした畜産現場における諸問題の解決手法ならびに畜産物を利用した食品加工技術に関する該博な専門的知識を有する、創造力に富んだ研究者・高度専門職業人の育成を教育目標とする。
セラピー	バイオセラピー学専攻では、人と生き物が健全に共生できる環境と生き物を活用した人間生活の質の向上を実現するための高度な専門的知識と研究能力を修得し、国際的に活躍できる研究者・高度専門職業人の育成を教育目標とする。
バイオ	バイオサイエンス専攻では、博士前期課程の学位授与基準を満たした上で、さらに国際的な研究活動も重視し、大学教員、さらに関連産業・研究機関・行政機関等において、研究・開発・行政のリーダー的存在となる人材の育成を教育目標とする。
農化	農芸化学専攻では、生産環境化学、植物生産化学、微生物学、食料資源理化学、生物制御化学、栄養生化学のより高度な知識と研究能力を修得し、リーダーシップを発揮し世界に通用する人材の育成を教育目標とする。
醸造	醸造学専攻では、微生物を駆使する発酵技術に習熟し、次世代の微生物利用産業の発展を支える研究者や専門職業人となり得る人材の育成を教育目標とする。
食栄	食品栄養学専攻では、食品学や栄養学などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた人材の育成を教育目標とする。
林学	林学専攻では、森林環境保全学、森林資源生産学、森林資源利用学、森林文化情報学などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、生物多様性の保全や循環型社会の形成に関する問題設定・解決能力および問題解決に向けてのリーダーシップを備えた人材の育成を教育目標とする。
農工	農業工学専攻では、水、土地および食料資源の有効利用技術の開発や、環境の創造・保全を考慮した工学的生物生産技術に関わる高度な能力を持ち、課題抽出能力、課題分析能力、課題解決プロセスの企画力を有する優れた研究者・上級技術者の育成を教育目標とする。
造園	造園学専攻は、造園学の視点から、「人間と自然との共存」を基本とした合理的で快適な土地空間を創造あるいは保全し、秩序づけることのできる高度な知識と技術を持つ優れた研究者の育成を教育目標とする。
開発	国際農業開発学専攻では、高度な専門知識を踏まえて課題を設定し研究を企画遂行する人材、さらには国内外の農業開発並びに国際協力分野でリーダーシップを持って活躍できる人材の育成を教育目標とする。
農経	農業経済学専攻では、社会科学の専門領域における高度な知識と論理的な研究能力を修得し、食料問題・農業問題・環境問題等、変化する社会・経済情勢に的確に対応できるリーダーシップを備えた人材の育成を教育目標とする。
ビジネス	国際バイオビジネス学専攻では、食・農・環境ビジネスに関する高度な専門知識と、倫理、言語能力、国際教養を身につけたシニア専門家の養成を目指し、自主的な研究計画立案・遂行・発表能力および人間力など総合的な能力を備えた人材の育成を教育目標とする。
共生	環境共生学専攻では、自然科学、社会科学および人文科学が融合した総合科学分野での学際的な研究手法の修得と総合的・複合的な研究能力を有する人材の育成を目指し、すべての生物が持続可能な共生関係を維持することの実現に資する人材の育成を教育目標とする。
生物産業	生物産業学専攻では、農学、林学、水産学、環境共生、産業経営学にわたる広範な学問領域を統合し、循環型生物産業の実現に対応できる問題解決力と創造性を持ち、それを実践する力を備えた人材の育成を教育目標とする。

【専攻単位】教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）	
【博士前期課程】	
農学	農学専攻では、作物または園芸作物の生産、育種、バイオテクノロジー、ポストハーベストおよび農作物に関わる微生物や昆虫類に関する専門的な科目、そして、研究手法およびプレゼンテーションを学修できるカリキュラムを編成する。
畜産	畜産学専攻では、必修科目は入学時の専修選考と連動しており、各自が修学すべき専修科目の座学、実験については1年次での修学に努めさせ、進路に応じた関連科目は在学期間の自由選択として広く学修を可能とするカリキュラムを編成する。
セラピー	バイオセラピー学専攻では、人と生き物が健全に共生できる環境および人間生活の質の向上を実現するための科目を配置し、基本と応用を学びながら課題に取り組み、問題解決の能力を身に付けることができるカリキュラムを編成する。
バイオ	バイオサイエンス専攻では、各特論、生命科学分野の周辺科目の配置による最先端かつ専門知識の習得を行うとともに、独自に学術論文から情報を得たり、成果発信能力を鍛錬するカリキュラムを編成する。
農化	農芸化学専攻では、従来の農芸化学分野の各専門科目に加え、生体機能化学、分子細胞生物学、環境科学、遺伝子工学の専攻専門科目を配置し、高度な知識と技術を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
醸造	醸造学専攻では、酒類生産学、発酵食品学、醸造微生物学、醸造環境科学の専門分野における科目を配置し、確かな知識と研究手法を学修できるカリキュラムを編成する。
食栄	食品栄養学専攻では、食品学や栄養学などの専門領域における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
林学	林学専攻では、森林環境保全学、森林資源生産学、森林資源利用学、森林文化情報学などの専門領域に関する科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
農工	農業工学専攻では、地域資源利用学、生産環境・計画学、施設工学、農業生産システム工学における専門知識と、研究および論文作成手法を習得するための科目を体系的に配置したカリキュラムを編成する。
造園	造園学専攻では、「造園・景観計画学」、「緑地・環境デザイン学」、「造園植物資源学」の3つの専修分野と、その関連領域における確かな学理、知識と技術を修学し、都市や自然地域において快適環境をもたらすための研究や応用デザイン能力を高めるための科目を体系的に配置したカリキュラムを編成する。
開発	国際農業開発学専攻では、農業開発や国際協力にかかわる問題の解決を図るための自然および社会科学にわたる専門領域の科目を配置し、フィールド研究から先端科学技術の修得までを統合的に学ぶカリキュラムを編成する。
農経	農業経済学専攻では、農業経済学、農政学、食料経済学を基幹科目として特論および特論演習、専門領域における特論、総合演習を設置し、知識と研究手法を体系的に習得するとともに、プレゼンテーション能力や問題解決能力を高めるカリキュラムを編成する。
ビジネス	国際バイオビジネス学専攻では、1年次では倫理、言語能力、国際教養に関する基礎科目および食・農・環境ビジネスに関する専門科目を配置し、2年次では研究能力、発表能力および人間力などを実践的かつ体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
生物生産学	生物生産学専攻では、植物資源生産学専修、動物資源生産学専修それぞれに「専門柱科目・実験」と「選択科目」を配置するとともに、成果発信能力を鍛錬する「共通科目」を加えて、各専修それぞれに特化した専門教育が遺漏なくできるカリキュラムを編成する。
アクアバイオ学	アクアバイオ学専攻では、生物学、資源学、環境学等の専門領域における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
食品香粧	食品香粧学専攻では、農水産資源を有効に活用するための技術開発や新規素材の開発、および食品や香粧品の機能性や品質管理に関わる微生物機能の解明や生体物質の機能解析の理論教育と実験を主体としたカリキュラムを編成する。
産業経営学	産業経営学専攻では、生物産業の持続的発展を支える経営学・経済学に関する理論ならびに実践的な分析手法を修得する「産業経営経済学専修」と生物産業の持続的発展を支える企業経営の理論と方法を修得する「地域企業マネジメント専修分野」による教育研究を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。

【博士後期課程】

農学	農学専攻では、農学に関する専門的な学識や技術を用いて研究を展開できる研究者や高度な専門技術者の育成のために、専門の研究指導者による教育を実施する。
畜産	畜産学専攻では、各専修における独自の実験等、研究・調査を積極的に進め、その成果の公表に努めるとともに後輩の指導にも取り組む中での教育を実施する。
セラピー	バイオセラピー学専攻では、研究教育活動を通じて、積極的に研究発表、論文投稿などを進める能力を高め、社会が求める高度な問題解決能力を身に付けることができるカリキュラムを編成する。
バイオ	バイオサイエンス専攻では、指導教授のもとで博士論文の作成を行うとともに、国内外からの講師によるセミナーに参加し、最先端の知識、技術を習得し、自らの研究に生かし、また、研究成果をとりまとめ、学会発表、学術論文発表により、研究者としての能力を高めることができるカリキュラムを編成する。
農化	農芸化学専攻では、専門領域における英語論文の作成、英語によるプレゼンテーション能力修得のための科目を配置し、研究内容を国内外の学会発表や学術論文において効果的に発信するためのカリキュラムを編成する。
醸造	醸造学専攻では、酒類生産学、発酵食品学、醸造微生物学、醸造環境科学の専門分野における科目を配置し、高度な専門知識と創造的な研究能力ならびに問題設定と解決にむけた指導的能力を修得することができる教育を実施する。
食栄	食品栄養学専攻では、食品学や栄養学などの専門領域における科目を配置し、高度な知識と創造的な研究能力を体系的に学修できる教育を実施する。
林学	林学専攻では、森林環境保全学、森林資源生産学、森林資源利用学、森林文化情報学などの専門領域における科目を配置し、高度な知識と創造的な研究能力を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
農工	農業工学専攻では、農業土木工学もしくは農業機械工学の専門的課題を自ら解決できる能力を獲得させるため、抽出能力、分析能力、企画能力を養うことを目的とした教育を実施する。
造園	造園学専攻では、「造園植物・植栽学」、「環境施設・機能学」、「環境資源・生態学」、「造園空間・計画学」の4つの専修分野における確かな学理、高度な知識と技術、研究手法と応用能力を学修できる教育を実施する。
開発	国際農業開発学専攻では、国内外の農業開発や国際協力にかかわる問題の解決を図るために必要な自然および社会科学におけるフィールド研究から先端科学技術の修得までを統合的に学修できる教育を実施する。
農経	農業経済学専攻では、農業経済学、農政学、食料経済学の領域における応用的科目を配置するとともに、フィールド調査及びプレゼンテーション能力の向上に資する科目を配置し、専門的な能力を高めるためのカリキュラムを編成する。
ビジネス	国際バイオビジネス学専攻では、1年次では倫理、高度な言語能力、国際教養に関する科目および食・農・環境ビジネスに関する専門科目を配置し、2年～3年次では自主的な研究計画立案・遂行・発表能力および人間力などを総合的に開発できるカリキュラムを編成する。
共生	環境共生学専攻では、生物学、化学、経済学、人文科学を基礎とした総合科学分野の専門領域における総合的・複合的科目を配置し、環境共生に関する高度な知識と独創的な研究能力を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
生物産業学	生物産業学専攻では、循環型の生物産業の開発管理と先端研究を可能にする農林水産、環境、流通の専門分野における先端知識技術と応用力を修得し、またそれを適切にプレゼンテーションする能力を養うカリキュラムを編成する。